

前回のお話で、喘息はどんな病気であるかを説明させて頂きました。  
今回は喘息の治療について説明したいと思います。

《気管支喘息治療について》

喘息の治療は大きく分けて二つの種類に分かれます。

- 1) 発作を起こさせないように喘息をコントロールする薬
- 2) 起きてしまった発作を楽にする薬



1) 発作を起こさせないようにする薬

この中で最も大事な薬が吸入ステロイドです。

①吸入ステロイド

目的：ステロイドの作用により喘息の原因となっている慢性のアレルギー性気管支炎を鎮めます。この薬が効いていると、今までは少しの事で過敏に反応していた気管支が落ち着きを取り戻してきます。結果として喘息が良くなってきます。

種類：現在様々な薬が登場しています。基本的に口から自分の力で吸って頂きます。

方法 粉っぽいものから吸った感じのないもの、ネブライザーで吸入するものもあります。これはどれが最も優れているというものではないので、患者さんに合ったものを探してゆく事になります。

副作用：ステロイドと言われると副作用が心配な方もおられるかと思いますが。

しかし現在は吸入ステロイドに関しては子供も含めて重大な副作用は認められていません（非常に高容量使用すれば別ですが）。

良く認める副作用は喉の症状（声がかすれる、いがらっぽいなど）です。

基本的には安全な薬ですので安心して使用して下さい。

②長期作用型気管支拡張剤

目的：喘息は気管支が細くなって息が苦しくなったり咳が出る病気です。

そのため気管支を広げる薬に効果があるのは当然ですね。

種類：薬としては吸入、貼付、内服などの方法があります。ホクナリンテープは有名です。

方法 特に長時間効果のある薬は患者さんにとってもありがたいですね。

しかし注意しないとイケないのは、この薬には喘息そのものを改善させる効果はありません。

必ずその他の薬と併用しないとイケません（軽症喘息は別）。

現在は吸入ステロイドと併用する事が一般的になっています。

アドエアやシムビコートという薬は最初から両方が一緒になっている薬です。

副作用：震え、動悸、頻脈などがあります。これらが生じた時には使用を中止して下さい。

貼付剤の場合は皮膚のかゆみもあります。

### ③ロイコトリエン受容体拮抗剤

目的：抗アレルギー薬の一種です。喘息はアレルギー反応の結果生じる病気ですので、アレルギーを軽くできれば喘息も軽くなるわけです。薬の名前ではオノン、シングレア、キプレスなどです。

種類：飲み薬ですので、子供でも使用しやすく重宝しています。安全性もかなり高く長期使用もできます。

副作用：肝障害の報告があるので、あまり長期になる場合は途中で血液検査をしておいた方が安心です。

### ④テオフィリン徐放製剤

以前は非常に多用されていた薬です。テオドール、テオロング、ユニフィルあたりが有名です。

現在は前述の非常に有効な薬が出ているので出番が少なくなっています。

もう1つこの薬は使い方が難しく副作用が出やすい薬です。他の薬との飲み合わせも問題になりやすいので、私は限られたケースでなければ使用しません。 ⇒裏へ

これらの薬を組み合わせながら喘息が安定していられるように加療を行っていきます。

患者さんの状態が良くなれば薬を減らしてゆきます。しかし急にやめるとすぐに再発しますので注意が必要です。発作を何度も繰り返している方は投薬をやめる事なく継続して頂く事も重要です。

## 2) 起きてしまった発作を楽にする薬

### ①短時間作用型気管支拡張剤

目的：苦しいときや咳がひどい時に使用する吸入薬です（内服薬もありますが）。

ネブライザーで吸入する場合や噴霧式吸入器があります。メプチン、ベロテック、ベネトリン、サルタノールなどが有名です。即効性があり非常にありがたい薬です。

ちょっと調子が悪い時に使用してその後調子よく生活できるのであれば安心です。

しかしこれは一時的に発作を軽くしただけであり喘息そのものの治療ではありません。

そのためこの薬だけで喘息を治療していると喘息がさらに悪化してゆきとんでもない事になりますので要注意です。何度も使用しないといけない時は無理をせず医療機関に受診しましょう。

### ②経口・点滴ステロイド薬

目的：これは喘息を安定させる最終兵器です。発作が強い時はやはりこの薬を使用しないといけません。

必要に応じて経口ステロイド薬を手元に持っていて、発作が出てしまった時にすぐに内服する事もあります。これがあれば夜間に救急外来に行かなくても良いようにできる事が多いです。

以上が主に喘息の時に使用されている薬です。

（もちろん上記以外の投薬もありますが、だいぶ使用頻度は少ないものになります。）

強調しないといけない点は、

**症状がなければ喘息は治った訳ではないのです。**

**残念ながら、完全に喘息を治癒させる薬はありません。**

現在使用されている薬は、喘息を軽くしているだけです。いくら症状が無くなっても油断はしないで下さい。風邪をひいたり、花粉症の時期が来ると増悪される患者さんもいます。

喘息の患者さんは普段の生活から自分の体調管理を行い、増悪しないように気をつけましょう！！



どの時点で投薬を中止するかは、患者さんと主治医と良く相談して決定すべきです。

何かご不明な点があればどうぞご相談ください。

なお、今回の情報は若松個人の意見に基づいて記載しております事をご了承ください。

わかまつ呼吸器内科クリニック 若松俊秀

